

## 関係各位

有限会社エコ・ライス新潟



ゴミだらけの田んぼに呆然とする

津波による農業被害の甚大さに改めて驚く  
作付け自粛は公的な支援対象外で「収入0」  
津波被害を免れた生産者でも米の作付けができず苦境に

### ○ 排水ポンプが壊滅し下流で溢れの恐れ、上流の農家も一蓮托生 ○



道を隔てて海岸に近い左側の圃場は田植え自粛地域。右は通常に作付けがされている田。自粛地と作付け地が明確に分かれている。

田植えが終了した阿部信行社長、白藤プロジェクト第5期リーダーの高橋菜里さん、見附市立葛巻小4年の豊永心君と宮城県名取市でアレルギー支援ネットワークのイベントに参加しました。

イベントの強力な助っ人の太田穂郎さんは稲作農家で、被災後の農業の実情と被災現場を案内してもらいました。宮城県内では津波の被害で排水ポンプ場27ヶ所の大半が被害受けました。その為に、上流の田んぼで水を流すと下流の排水路で水を排水できず溢れ出してしまいます。沿岸部は0m地帯で更に地盤沈下も加わり農業用水が復興作業に悪影響を及ぼすのは必至です。

津波の被害から免れても田んぼが作れない地域があり、驚いたことに自粛している農家には公的な支援がまったくありません。

水をあまり使わない「大豆」などに転作も考えられますが、専用の機械購入や低い土地では良質の豆が育ちません。ポンプや排水路の復旧にも時間がかかりそうで、来年の作付けも難しいのが現状です。被災されたカーネーション農家にもお話を伺いましたが、具体的な農業復旧の道筋が見えません。

東日本大震災の農業への影響は被災地にとどまらず、新潟県にも波及しています。被災県との県間調整(減反を融通しあう)により、大幅に主食と用途限定(酒、モチなどの加工用)の生産数量が変更。加工業者への出荷計画が狂い調整が難航。今秋の米価、米加工品の消費者価格の上昇は避けられない模様です。



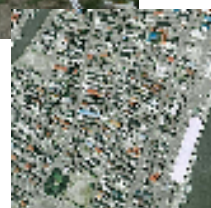
名取市関上の政府指定倉庫。津波で米が水をかぶりすべて廃棄処分。フルパックには「H19年産あきたこまち」の数えきれない袋。もの凄い異臭が放たれていた。



海岸に堆く積みあがったガレキの山。建物が密集していた海岸部は見渡す限りなにもなし。体験した事のない悲惨な光景に言葉を失う、高橋さんと心君。



津波で倒された日和山富士主姫神社の昭和の津波の石碑。神社の小山から津波で破壊された海岸部を見渡す(写真右)。かつては家が密集していた(写真右下)。家の土台しか残っていない。神社には多くの方が慰霊のお供え物、花束が置かれていた。



【 問合先：(有)エコ・ライス新潟 豊永有(トヨナガユウ) 】

〒954-0181 新潟県長岡市脇川新田町字前島 970-100

TEL 0258-66-0070 FAX 0258-66-0447

e-mail [eco-net@nekonet.ne.jp](mailto:eco-net@nekonet.ne.jp)